

黒川地区 まちづくり懇談会会議録

1. 開催日時：令和6年11月27日（水）午後7時30分から午後9時29分まで

2. 開催会場：黒川ふれあいセンター 大会議室

3. 出席者 72名

（1）地元参加者 57名

（2）町執行部等 15名

町長 佐伯 正貴	副町長 安江 章	教育長 鈴木 雅史
総務課長 藤井 充宏	庁舎整備室長 竹腰 耕太郎	企画課長 渡口 彰規
町民課長 長尾 茂気	保健福祉課長 長尾 ひろみ	農林課長 長尾 弘巳
建設環境課長 中村 豊	教育課長 大岩 裕樹	学校再編専門監 玉置 雅野
学校教育係長 鈴木 幸祐	黒川地区公民館長 今井 恵美	書記 安江 紳悟

4. 会議資料 別紙のとおり

5. 会議録

- ・教育課長 会議を開催する旨を述べた。
- ・町 長 開会にあたり挨拶をした。
- ・教 育 長 白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について説明した。
- ・大建設計 施設一体型小・中学校について説明した。
- ・教育課長 質疑を許した。
- ・女性A 子供が令和11年に中学3年生になる。受験前の大事な時期に、先生や学校が変わるということが不安。先に入らせてもらうといった対応は可能か。
- ・教 育 長 佐見中が白中と統合する時も同様の質問をいただいた。どこかのタイミングで切り替える必要があるのでは、そのような状況になってしまう生徒は出てくる。少しでも馴染みやすくなるよう、様々な行事で生徒同士の交流を深められるようにしている。先に入るということは転校という扱いになってしまうので難しい。
- ・男性A 災害が発生する可能性がある場合の送迎について、引渡しとなると思うが県道が通行止めになるなど、すぐに迎えに行けないような場合はどのような対応になるか。
- ・教 育 長 災害が想定されるような場合は、なるべく警報が出る前に下校させるよう取り組んでいる。佐見の場合は白川中学校から佐見ふれあいセンターまでのバスを出し、ふれあいセンターでの引渡しとなっている。黒川も佐見と同様の対応を想定している。
- ・学校再編専門監 白中と佐見中の統合の際に統合準備委員会を設置し様々な課題を検討した。その中で災害の発生が予想される場合の引渡しについて話し合い、自治会の公民館で引渡しができないかという意見もあったが、職員のいるふれあいセンターがいいという意見に収まった。黒中の統合が正式に決まったら、委員会を開き統合に際しての、子どもたちや保護者の不安に、きめ細やかに対応していくことになる。
- ・男性B 新校舎について、山側に面していて冬場になると日が当たる時間がほとんどな

く冷え込むことが予想される。そのような状況で子供たちが活用してくれるか心配。もう一点、開放的なスペースが多く現状のような部分的な暖房冷房といった空調が難しいように思うがそこはどうか。

- ・大建設計 指摘の通り冬場の午前中は校舎の殆どが日陰になる。昼頃になると日が入るようになるので、できるだけ日が入るような設計にしている。空調に関しては、部分的な空調は効きが悪いので、外気の断熱を徹底し熱負荷を抑えながら全体を空調する。廊下もワークスペースとして利用するので、全館空調していく。
- ・総務課長 自主防災活動補助金、防災アドバイザー派遣事業について説明した。
- ・庁舎整備室長 新庁舎建設工事の進捗状況について説明した。
- ・企画課長 公共交通対策、空き家管理、地域通貨について説明した。
- ・農林課長 次年度からの農業振興策について説明した。
- ・保健福祉課長 暮らしに役立つ勉強会について説明した。
- ・教育課長 質疑を許した。
- ・男性C 自分は8年前に移住してきた。白川町は少し前にオーガニックビレッジ宣言をしたので、有機農業をやりたいという移住希望者が増えると思う。しかし、住む家がない・貸してもらえぬ農地が少ないといった状態。空き家があるのに、空き家バンクに登録されていないため使えないという状況は移住希望者からすると宝の持ち腐れに思えるので、せっかくある資産を有効に使うことに今まで以上に力を入れてもらいたい。
- ・企画課長 黒川は町内でも特に移住希望が多い地区であり、空き家情報を押さえる動きも町内随一。しかし、移住を希望する方の求める条件をすべてクリアするような物件が少なくマッチングが難しい。移住交流サポートセンターによると、空き家はあるものの、月に一度仏壇の管理に来る等人に貸すことはできないという物件があり、空き家バンク登録が進まないとのこと。町としても、固定資産税の通知の際に利活用できる空き家があれば、登録を促すような働きかけを継続して行っていきたい。
- ・女性B 8月に黒川に移住してきた。中学校が高いところにあり見晴らしがいいと思っている。中学校が統合されることを知らずに黒川に来たので、統合されると聞いて非常に残念。今日は学校統合に関する話を聞けるということで参加した。
- ・教 育 長 本日はまちづくり懇談会ということでこのような形になった。時間の関係で説明しなかった内容もある。保護者の数も少ないので、今後PTAの会議等保護者が集まるような場で説明をしたり、話を聞いたりするようにしたいと考えている。
- ・学校再編専門監 黒川中学校が統合になった場合、現在の中学校の校舎は比較的新しいので、老朽化している小学校の校舎から黒川小学校を移す計画である。
- ・男性D 30年以上前に移住した。子供がいなかったため学校再編にあまり関心を持っていなかった。黒川の小中学校で一貫校にすることはできないか。
もう一点、NPO法人どんぐり会として13年活動をしており、活動資金として森林環境税やふるさと納税のふるさと応援寄付金を活用している。ふるさと納

税の寄付金は5年目になり今年で打ち切りになるとのことだが、なぜ5年で打ち切りになるのかわからない。企画課の担当者に聞くと、スタートアップの支援を目的としており、5年ほど活動していれば自力で活動していける力をつけられる。という説明だった。非営利で活動していることや、町外の方が活動に興味関心を持って応援のため寄附をいただいているが、それでも打ち切りになるのか。また、交付されたお金を同年中に使い切らなければいけないという縛りは何とかならないか。

- ・教 育 長 貴台の質問の一貫校とは、1つの校舎に小学生と中学生が入っている形態のことと理解してお答えする。隣の東白川村は令和9年に小中一貫の義務教育学校となる。飛驒の白川村も同様で、自治体に1小1中だと一貫校に統合という形になっている。佐見中学校の統合の際にも佐見の小中学校を統合という話が出たが、中学生の人数があまりにも少ないということで、佐見の小中学校で統合するよりも中学校同士で統合したいという結論になった。通学は遠くなったが、人数が増えたことでやりたいスポーツの選択肢が増えたという声があった。そこで黒川の場合、黒川小学校に中学校を持っていくことは可能であるが、築51年経過しており老朽化が懸念され、反対に中学校に小学校を持っていこうとすると教室が足りなくなるという物理的な問題もある。このような観点から中学校同士の統合と考えている。
- ・企画課長 ふるさと納税の活用については前回と同じ回答で、制度の仕組みがスタートアップの支援となっており5年で打ち切りとなる。それ以降は町のふるさと納税を活用した資金集めは難しいが、民間のサイトを使ってクラウドファンディングで資金集めをするお手伝いなどの支援をして行きたい。期限を設けずにいると他の任意団体も同じことをされた場合、ふるさと納税にも限りがあり難しいのでご理解いただきたい。
- ・女性A クラブチームに行くためにお出かけしらかわを利用しているが、定期便との兼ね合いで使いたいときに使えない場合がある。今後予約制バスを増やすような予定はないか。
- ・企画課長 できる限り要望にお応えしたいが、資源が限られているためどうしても不便をかけてしまう。ダイヤの変更について毎年検討しているので、いただいた意見は持ち帰り相談させていただく。
- ・女性C 学校統合について、生徒たちに意見を聞いたことはあるか。親として子供に意見を聞くと嫌だといっている。当事者にきちんと説明をしてもらいたい。
- ・教 育 長 今までは統合が決定する前に子供たちの意見は聞いておらず、統合後に旧白中と旧佐見中の子供に統合してどう思うかのアンケートをとっている。今のところ統合前に子供たちに意見を聞くことは考えていない。
- ・女性C 子供が嫌といっているところに送り出すのは親としても気持ちよくないので、きちんと子供たちにも説明してもらいたい。
- ・教 育 長 いただいた意見を踏まえながら検討して行きたい。
- ・男性E 学校再編について教育委員会から説明をいただいていたが、まちづくりを考え

ていくうえで、学校が地域から減るということはまちづくりの観点からダメージが大きいと思う。今後のまちづくりに対してどのようなビジョンを持っているのか、納得のいく説明を聞きたい。

- ・教育長 学校教育という視点からどのようにまちづくりをしていくか話させていただく。黒川から学校がなくなるという考えではなく、河岐にできた新しい学校が黒川の学校だという意識を持ってもらうために学校と地域の交流活動を展開し、新しい学校を中心として、地域とともにある学校を作り上げていきたい。本日説明を省いた内容に関係するが、教育の中身で興味をもっていただき町外から白川に来たいと思ってもらえるようにしたい。

- ・町長 学校が地域の核であり、無くなると地域が疲弊していくという意見が以前の会で出ていた。地域で生徒を見られなくなるのはさみしいという意見も多いが、これからの子供たちのことを一番に考えていただきたい。

青雲の集いや東座での歌舞伎公演など白中の生徒との交流の場が以前よりも増えており、たくさんの友達と会えてよかったという声があった。各々の考え方があるので、統合に対して不安や反対という意見があるのも当然である。しかし、これから保育園に入る年代には黒川で同学年が1人しかいないという学年がある。

学校が無くなると子供がいなくなると思われるかもしれないが子供の生活の拠点は地域である。地域との関りがなくなるという声もあるが、地域の活動の中心は公民館になるので、公民館の活動の中で子供と関わればと思う。

自分も地元が黒川であり黒川中学校が無くなるのは大変さみしいが、冒頭あったようにどこかのタイミングで必ず区切りが必要になる。子供たちが白川町の学校で良かったと思えるような教育ができるような提案をしながらまちづくりにつながっていくと良いと考えている。

- ・教育長 先ほどの子供の意見はということに関して佐見の事例になるが、佐見中が統合のため無くなることが決まった後、佐見小学校の生徒が進学する時は白川中学校になるという説明の機会を設け、話をさせてもらった。黒川の場合だと今の4年生以下の生徒が対象となる。このような機会を設けることは可能なので補足させていただく。

- ・町長 佐見の保護者と話をしたいという意見があり、実際に統合したことでどう変わったか聞くような機会が作れたらと思う。

- ・女性D 自分の子供はすでに成人しているため、小中学校の話はあまり知らなかったが、保護者の方から話を聞いて参加した。新しい学校の話聞いて素敵だと思うが、話す内容が、すべて子供が減っていく前提になっており、せっかく綺麗な学校を作ってもいつか無くなってしまうという不安を抱いた。統合しなければいけないということは理解したが、子供を増やしていくという抜本的な対策に力を入れてもらいたいと思った。

自分の息子は長野県的美麻村に山村留学をしていた。美麻村も1クラス10人いるかないかという状況で小中学校を統合し山村留学を受け入れていた。

そこでも中学校の無い地域には移住者が集まらないという話があり、中学校をなくさないために統合したとのことだった。第三の選択ではないが黒川でそれが可能なら、それもアリなんじゃないかと思った。

子供を増やす、移住者を増やすといった対策があるか知りたい。もし対策をしていないのであれば是非検討していただきたい。

・企画課長 移住政策に関しては、移住交流サポートセンターが窓口になり移住希望者の学校や仕事の相談に乗り、移住者は増えている。しかし、中学校を卒業し高校に通うタイミング、あるいは高校を卒業するタイミングで白川から出て行ってしまいそのまま白川には戻らないということが圧倒的に多い。人口ピラミッドを見ると20代30代がごっそり減っているという人口構造になっている。白川の出生率を見ると全国と比べても悪い数値ではないので、子育て政策は一定の効果があると思われる。どれか一つの政策だけで人口を維持するのは難しい。他の会場では、新しい学校ができるのであればそれを売りにした移住政策ができるのではないかという前向きな意見が出たので、そのような意見も踏まえ総合的な移住政策に取り組んで行きたい。また、中学校までは教育委員会に一生懸命ふるさと教育をやっていただいているが、高校生になると都会の生活に気づいて戻らないということが多い。そのような人たちに田舎の生活の豊かさを伝えていきたいと思う。

・教育長 教育という観点から、令和11年に統合したら部活動ではなくクラブとして活動するという方針。クラブは17時からの活動を基本としており、19時頃に活動が終わったあと、高校生を乗せるおでかけしらかわのバスがあるので、そのバスで黒川まで帰ってくるという計画をしている。町長の願いでもある「白川で生まれ育ったからこれができた」と思えるような教育をしたい。今考えているのは英語の教育であり、白川の教室と外国の教室をテレビ会議でつなぎコミュニケーションをしようと考えている。時間がかかると思うが、少しずつ情報が広まり、白川ならこんな教育が受けられると移住につながれば思っている。

・教育課長 他に質疑がなかったので閉会の旨を述べた。

・副町長 閉会にあたり挨拶をした。

(午後9時29分閉会)